



平成29年度を振り返って

<研究・研修>

★「気になる」という教師力が、児童生徒を救う

「だれもが研修(1)特別支援教育」が、終了しました。7年目であることを鑑みて、今年度から、全体会のもち方を、「抽出児童生徒についての協議」に改め、知識を活用する研修を目指しました。協議の鍵は、「気になる行動や発言等」に気付くことができるかどうかです。本紙では、実際に各校で出た意見を基に、発達障がいの特徴の一部を紹介します。

1. 本人の様子

- ・顔や体の部位を、よく触ったり動かしたりする。
- ・言葉の抑揚が平坦であったり、不自然に語尾が上がったりする。
- ・極端に右肩上がりの(丸みの無い)文字を書く。
- ・授業の流れを気にしておらず、作業を始めなかったり、次の作業に移行しなかったりする。
- ・教職員が全体指導中でも、突然、質問したり不満を言ったりする。

緊張感が表れています。大きな衝動の予兆と捉え、動かし始めた時に声をかけます。

自分規準で判断、行動する傾向があります。「〇分になったら、行くよ」と具体的な約束で対応します。

情報整理が苦手です。多様な情報がシャットアウトできる席が理想的です。

過剰な支援や教員の視線に緊張することもあります。揺れが止まったのは、緊張が緩和されたからです。

2. 仲間との関わり

- ・隣の席の子や、交流する相手との距離が近い。(体が触れる時もある。)
- ・遠くの席の子のやり取りや発言に、関係ないのに返事(反応)をする。
- ・班(交流)活動で、自分の順番がきても、指摘されるまで気付かない。

3. 教職員の指導に対する反応

- ・机間指導で、教職員が近づくと、足の揺れが止まる。(始まる。)
- ・注意された時の目つきが鋭い。

「気になる」点に気付くために、事前に抽出児童生徒について情報を交流したり、付箋に記入しながら授業を参観したりした学校もありました。また、各グループに特別支援学級の教員を配置し、発達障がいの特性について学びながら協議を進めた学校もありました。

研修の機会を捉えて、教師力を高めようとする意欲に、今後も応えていきます。

<教育情報>

★研修会

本年度は、現職教育「情報教育サポート」としてSKY MENU やeライブラリの活用、デジタル教科書やwebコンテンツの活用等の研修を行いました。

研究発表会や学校訪問では、タブレット端末を使った実践を見るのが多くなりました。【資料1】からも大垣市の先生方がICTを活用して指導していることがよく分かります。



また、情報教育主任研修会では、プログラミング教育についての動向をお伝えしたり、プログラミングソフト「スクラッチ」を使った体験型の研修を行ったりしました。今後は、タブレットの導入にとまなない、より実践的な活用方法についての研修や所報を通じた情報提供を行います。また、プログラミング教育についての研修を行います。

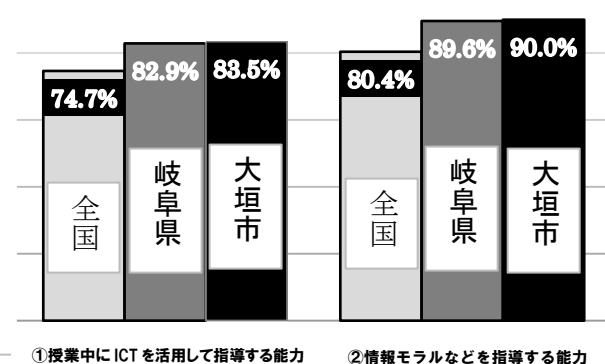
★学校サポート

情報モラル教育の充実を図るため、2学期には道徳や特別活動における情報モラルの指導の在り方について提案してきました。1学期の指導が点で終わることなく、線をつないだ指導がなされ、先生方の情報モラル指導力も高まってきました。(【資料1】参照)また、情報モラル講演会は、修学旅行説明会や1日入学のときなど多くの保護者が集まる場を利用して行いました。

今後は、「特別の教科 道徳」における情報モラルの扱い方について、系統的な指導がなされるよう提案していきます。

【資料1】情報化の実態等に関する調査

平成28年度 学校における教育の情報化の実態等に関する調査(平成29年12月公表)
各項目について「わりができる」「ややできる」と回答した割合(%)



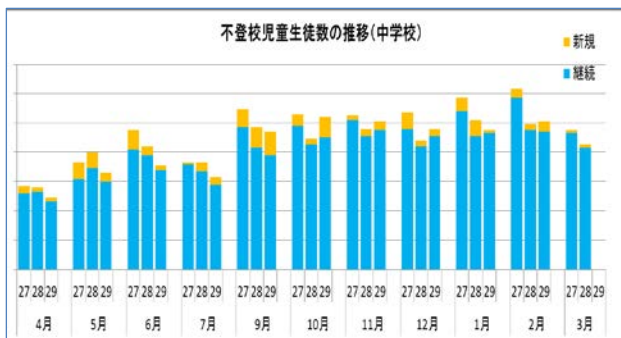
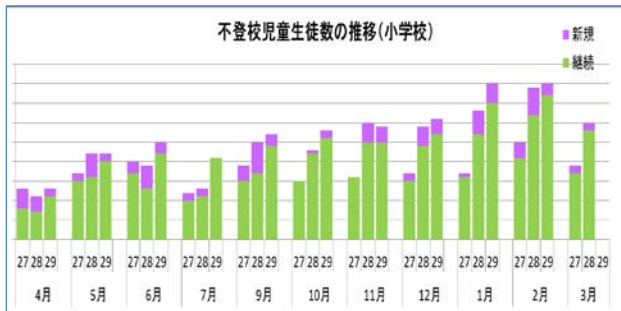
<教育相談>

今年度も「不登校生の未然防止と早期対応」を重点に支援を行ってきました。

各学校においても、未然防止・早期対応を強く意識して対応していただいたことで、新規不登校として報告される児童生徒数は、減少傾向にあります。

しかし、継続して不登校として報告される児童生徒については、小学校において増加傾向にあり、一旦不登校になると、長期的に欠席が続いている状況です。

下のグラフは、過去3年間において、毎月の報告で不登校としてあげられた児童生徒数について、新規・継続に分けてグラフ化した結果です。



いろんな見方ができると思いますが、新規のみにスポットをあてると、小中ともに5月・9月に新規が多いですが、小学校においては1月・2月にも多くなっています。

不登校対応への参考としていただけたらと思います。

<新年度のスタートを迎えるにあたって>

今年度も、過去3年間の欠席等の記録から、気になる子どもの把握及び支援方法の検討をお願いします。

新年度のスタートをどのように迎えるのか、子どもや保護者の意向を踏まえつつ、具体的な目標がもてるような支援をお願いします。

<少年支援>

悩みや問題を抱える児童生徒の減少を目指し、学校、時には関係諸機関と連携して、それぞれがもつ教育的なニーズに応じた個別支援や学校支援を行ってきました。また、地域ぐるみの青少年健全育成について、さらなる充実を目指して活動を推進してきました。

今年度の傾向としては、小学校低・中学年の、学級内で落ち着いて授業が受けられない児童に対しての支援要請が多くありました。そこで、要支援児童生徒に寄り添い支援すると同時に、特に、頑張っている児童生徒への認め・励ましの声かけを意識し、学級全体が向上することを願って活動してまいりました。今後も様々な問題に対して学校と連携し、「一人でも多く学級・学校の活動へ！一つでも多く安定・充実した学級を！」を合言葉に活動していきます。

<平成29年度活動状況> 2月末現在

○少年相談員による学校訪問回数

学校支援訪問回数(小学校)	672回	22校
学校支援訪問回数(中学校)	235回	10校

○スクールソーシャルサポート(SSS)事業(人)

支援内容	SSS 支援員			少年相談員		
	計	小	中	計	小	中
学級内支援	114	99	15	121	108	13
校内別室支援	30	15	15	21	13	8
家庭訪問支援	1	1	0	3	2	1
登校支援	6	3	3	13	10	3

◇大垣市少年支援員の活動

今年度も、各地域選出の方や学校職員、PTA役員、警察関係者など総勢162名の少年支援員で、各校区のパトロールやイベント・祭りでの補導活動を実施してきました。“マイスクール支援ネット会議”は各校区で定着し、児童生徒に関する情報交流や通学路の見守り活動など、地域と学校をつなぐ有効な会議として実施していただきました。



<<教育総合研究所にかかわる4月の行事>>

4月 5日(木)	小1担任研修会
17日(火)	第1回教育相談研修会
19日(木)	第1回研究指導員会
24日(火)	第1回教育研究会部長会

今年度も教育総合研究所の活動にご理解とご協力をいただきまして、ありがとうございました。来年度も所員一同、先生方や子どもたちへの支援に精一杯努めてまいります。本当にありがとうございました。